

討論メモ

令和5年3月21日

「予言の論考『日本の自殺』について」

1. 3月は大平忠さんに、頭書の論考についてその背景や内容について、掲載済みのレジメを参照しながら下記の要旨の解説をいただきました。

この論考は1975年の文芸春秋2月号に掲載され、著者は"グループ1984"とされています。ジョージ・オーウェルの著名な予言小説「1984」にちなんだグループ名と想像されますが、1975年といえば、日本が凄まじいまでの経済成長を遂げ、ジャパン・アズ・ナンバーワンといわれたピークを目指していた勢いのある時代でした。それだけに日本の停滞を予測したこの論考は高い注目を集めました。

その後、2012年の同誌の3月号に再掲載され、予言通りに日本は衰退への道を歩んでいるとの懸念が出されました。

さらに、今年の特号の1月号に佐伯啓思氏が「日本の自殺を読み直す」として同論考を三度取り上げています。

この30年の日本の停滞は、繁栄した文明の辿る必然の道程なのか、それとも戦後の日本に固有なものなのか、この論考は文明論を中心に様々な角度から究

明に努めようとしています。

2. この日はオンラインの不調から開始時間が大幅に遅れ、一方で本テーマは多様な角度から様々な意見が出るのが予想されたため、出席者間の意見交換は次回に譲ることといたしました。

以上